

第 14 章 「東北の LGBTQ 中高生」のための場づくり

宮城県・HOMEY

あゆみさん



実施日：2019 年 8 月 4 日 聞き手：杉浦郁子・前川直哉

実施場所：仙台市市民活動サポートセンター（仙台市）

【プロフィール】

1998 年、宮城県仙台市生まれ（インタビュー時 21 歳）。2014 年 11 月、仙台市で LGBTQ の中高生が集まれる場を作ることを目的とした団体、「HOMEY（ホームミー）」を立ち上げる。仙台市内の大学に在学中。

1. 小学校までのこと

◆男の子とよく遊んだ

保育園の頃は、男女どちらに自分が属しているかを考えたことはあまりなかったです。でも、小学校に入学するとき、「女の子がほしかった」と言っていた母親に、ピンクのフリフリの服を着せられて式に出たことが記憶に残っています。反抗はしませんでした、「これ、着たくないな」と何となく思いました。髪も三つ編みにさせられて、嫌だとは思わなかったんですが、「なんか違うな」というのはありました。

小学 3 年生の頃から、男の子の友達とよく遊ぶようになりました。男の子の服をお下がりでもらって、「こっちのほうを着たいんだ」と言ったら、着せてくれましたし、「髪も切りたい」と言ったら、切らせてくれました。友達の前だけですが、一人称を「俺」と言ってみたり、その頃から男の子っぽい感じで過ごしていましたね。

◆自分用のパソコンをもつ

小学 5 年生のときに、インターネットを使える環境になりました。父親がパソコン好きで、自分がパソコンに興味をもったら、自分用のパソコンを与えてくれました。

生理が始まった頃で、「女 and 嫌」でキーワード検索をしていたときに「性同一性障害」という言葉を知りました。「これかもしれない」と何となく思いながら、当事者のブログもたくさん読んでいました。中学に入って制服の問題にぶつかったとき、当事者の人たちの中学時代と自分の現状をあわせて考えて、「自分はやっぱりこれだ」と思いました。

ちなみに、好きになる相手は女性なのかな、と思っています。アニメや漫画のキャラクターでは、女の子のキャラを好きになることが多いので。でも、今まで人を好きになったこと

がなくて、実際のところはちょっとまだわからない、という感じです。

2. 中学時代

◆制服

中学になると制服がスカートで、それを小学校の同級生に見られるのが本当に嫌でした。ずっと「俺」と言ったり、男の格好をしてきたのに、「やっぱりあいつ女なんだ」というふうに思われてしまいそうなのが、すごく嫌で。小学校のときから体格差が出てきて、遊んでいてもついていけないことが多くなってきていたので、「これでさらに男友達との距離が開いちゃうんじゃないか」と思いました。

制服については、小学校の頃よりはっきりと「これは着たくない」と言いました。でも、母親には、「みんな着ているものだし、私生活でこれを着ろって言ってるわけじゃないんだから、割り切って着たらいいじゃない」と言われて、自分でも「それは確かにそうだな」と納得するところもあり、「仕方ない、着るか」と割り切って着ていました。それに、午後の時間になると、体育の授業がなくてもみんな体操着になっていたのも、制服は午前中だけ。家から学校までも徒歩3分で、外の人に見られることもあまりなかったのも、平気でした。

着替えは、女子が教室の中、男子は多目的室でした。プールのときの着替えはかなり嫌でしたが、ジャージに着替えるときは、そんなに嫌だとは思いませんでした。それほど時間がかかるわけでもなかったのも、

◆1年の冬、学校に行けなくなる

小学校から吹奏楽部に入っていました。学区の中学校が全国大会に行くような強豪校で、小6の春休みから、小学校の吹奏楽の部員全員が、中学校の練習に参加していたのですが、入学してから部活に行けなくなりました。

「ステージを客席から見たときに見栄えがいいから」という理由で「女子は、みんなポニーテールにしましょう」と言われたり、マーチングでは、チアリーディングのような膝上の短いスカートの衣装だったりしました。自分は結べるほど髪が長くなかったのですが、大会前のリハーサルとき、「なんで結んでいないやつがいるんだ」と先生にすごく怒られました。髪なんて結んだことがなかったので、先輩に「ちょっと結んでください」と頼んだら、そのことについても「先輩の手を煩わせるんじゃない」とすごく怒られて。それから目を付けられたのかな。練習のたびに、自分が吹いていないところまで「おまえだろう」と先生に怒られるようになりました。

自分は、小6の3月が東日本震災だったのですが、先輩たちは震災のせいでアンサンブルコンクールの全国大会に出られなかったんですね。それがニュースで取り上げられて、震災絡みの交流で東京に行ったり、神戸に行ったり、遠征の多い年だったのですが、「おまえはかわいくないから連れて行かない」と言われました。自分より実力が下だと思っていた人たちが行って、自分が留守番ということがしんどくて、だんだん練習に行きたくなくなりました。

その先生は、厳しいことで有名でした。自分が入学する前の年から、小学校の吹奏楽部の先輩が学校に行けなくなった、という話は聞いていました。毎年1人、2人は行けなくなる人が出るくらい、厳しい先生でした。

最初は、部活に行かないだけだったのですが、同じクラスの吹奏楽部の人々が、毎日放課後になると部活に行っているのに、自分だけ行かないのは居心地が悪くて。そのうち、先生が怖くなってしまって、中1の1月から学校にも行けなくなってしまいました。

親と相談して、部活はやめたのですが、結局、学校には行けなくて……。親に「転校させてくれないか」と言って、中2に上がるタイミングで転校しました。住所を変えるとか、けっこうな手間だったようなのですが、休んでいたのを見兼ねたのか、親も「いいよ」と言ってくれました。

◆転校

最初の中学校はブレザーだったのですが、転校先の学校の制服は、セーラー服でした。セーラー服は、ブレザーより「女の子が着るもの」というイメージがあったし、通学時間も3分から40分になってしまったので、見られるのが嫌で……。学校に行っていなかったせいで勉強もできなくなっていたし、本当に自分に自信がありませんでした。誰かに話しかけることもできないし、すでに出来上がっているグループにも入っていけない。職員室にも入れなくて、日直もできませんでした。そんなことがあって、夏休みに入る前ぐらいから、また行かなくなってしまいました。

その後「フリースクールに行ってみないか」という話があって、そこは割と楽しく通えました。中学3年になってからは、別室登校をしていました。教室に行かない子たちに別室が用意されて、そこで勉強して、給食の時間になったら帰る、というかたちでした。

◆性自認の悩みは相談できなかった

性自認の悩みを誰かに相談したことは、なかったです。中学には一応、相談室があったのですが、「月に1回、この時間」と指定されていて、好きなときに行けなかったです。それに当時は、不登校は本当に駄目な人間になるものだと思い込んでいて、誰かに相談することで社会から外れてしまうんじゃないか、と思っていました。だから、相談したいと思わなかったし、することもなかったです。

母親にも「ポニーテールにしると言われて嫌なんだ」「ブレザーよりセーラー服が辛いんだ」という言い方はしていません。「遠征に連れて行ってもらえない」とか「怒られた」ということしか言っていない。だから、母親としては「この子は何もしていないのに」という憤りはあったにせよ、ジェンダー絡みの悩みだというのは、まったく気づいていなかったと思います。

◆「SMILE」に行く

中3のときに、大学生が運営していた「SMILE」という団体の交流会に行きました。トランプをしたり、公園で遊んだり、今の「HOMEY」の活動に近いことをやっている団体で、

若めの年齢層、10代、20代が来ていました。代表は山形芸工大の学生で、交流会は仙台でやっていました。

SMILEの活動のことは、ネットで知りました。当事者と交流したいと思って、ネットで調べていたのですが、大人が集まっているようなところや、3000円で飲み会しましょうというところばかりで、それは行きづらいなと思っていました。SMILEは、定期的にはやっていなかったのですが、大学1年生とか、比較的、年が近いので、行けそうだと思います。やっぱり自分ぐらいの年齢の人がいるのか、ということは重要でした。自分以外の中学生はさすがにいませんでしたし、大学生から「若いね」とびっくりされましたが、すごくかまってくれて、楽しかったです。

SMILEは、公民館の部屋を借りてやっていました。参加者は10人ぐらいはいたんじゃないかな。ジェンダーで参加者の線引きをしていたわけではなかったようなのですが、トランスとビアンとバイの方が多くて、不思議とゲイ男性はいなかったです。ジェンダーのことに關しては「自分はこれだ」というある種の確信はありましたが、「自分は性同一性障害とかFtMかもしれない」と口に出して言ったのは、SMILEの交流会が初めてでした。

今の友達のなかにも、SMILEの交流会で会った人がいます。FtMの人が2人で、もう社会人なのですが、2人とも2回目の交流会で知り合いました。榴岡公園で遊んだ後、駅までみんなで歩いて帰ったことがあって、「このアニメが好きだ」とか「この漫画が好きだ」とか、趣味の話をしたんですね。そうしたら、「それ、いいね」「自分もそれ好きだよ」という感じで盛り上がって、LINEの交換をしました。それで、お薦めした漫画の感想が来たりして、そのうち一緒にカラオケに行ったりするようになりました。学校に行っていなかったから、友達がなくて。だから、友達ができたことがすごく嬉しかったです。

◆カミングアウト的なこと

中学2年のときに、カミングアウト的なことは一応して、母親に「こうかもしれないんだよね」という話をしました。でも、ちょうど父親のDVが原因で離婚調停中で、母親も精神的に余裕がなかったのか、すごくヒステリックになってしまいました。「もうその話はしないで」と言われ、この話はタブーに。

でも、SMILEに初めて行ったときは、「やっぱり行先を言わなきゃ駄目だな」と思って、「こういうジェンダーのことをやっているところに行くから」という言い方で伝えました。母親は、宗教を勧誘する団体のような、怪しい集まりに行く、と理解したらしく、「何でそんなよくわからないところに行くの」と言われたのですが、行くこと自体は許してくれました。でも、交流会から帰ってきてからもずっと不機嫌で、あまり良く思っていない様子でした。

3. 高校時代

◆女子高に行く

高校は、私立の女子高を選びました。自分が通っていた中学校から行く人が少ないところ

が良かったのが理由の1つ。それから、中学にぜんぜん行けなかったのも、定時制や単位制ではなく、毎日行く高校に行きたいということがありました。青春したかった、というか。あと、何となくもてそうだな、と思って選びました（笑）。

でも、中学で別室登校していたとき、ずっとジャージで通っていたので、制服のことをあまり考えていなかったんです。女装だと割り切れれば行けるだろう、と思っていたんですけど、でも通学時間はバスを乗り継いで1時間半。その間、制服を着ているところを見られるのが嫌だな、とか、細々とした問題も出てきました。

5月ぐらいから屋内プールの授業が始まって「そうか、プールがあったか」と思って、そのときはすごく焦りました。スクールカウンセラーに相談しに行って「自分はたぶん性同一性障害だと思っています」「直近でプールをどうしようかと思っているんですよ」と話したら、すごく親身に聞いてくれました。自分としては、プールに入らなくて済むようにしたいと思って相談したのですが、そうすると体育の先生に理由を話さなければいけない。カウンセラーの先生から「体育の先生に理由を伝えても大丈夫かな」と聞かれたときに、「それは、今はちょっと厳しいかもしれないです」と答えました。入学したばかりでどんな人なのか全然わからない先生に、自分のことを言わなきゃいけないのか、と思って。結局、体の隠れるラッシュガードとスパッツのような水着を着て、高1のプールの授業は全部出ました。学校指定の水着がなかったのが幸いしました。

◆高2の冬に中退

プール問題が解決したあとも、カウンセラーの先生との面談は続いていましたが、高2の冬に高校を中退しました。

制服を着られなくなってしまった時期があって、先生に相談して、登下校のときだけスラックスで通えるようにはなっていました。登下校だけ、というのは自分の希望です。学校のなかでスラックスを履くと、目立って特別っぽくなってしまうから。それに、学校では「周りがみんなこれを着る、これを着るしかないんだから」と割り切れると思いました。でも、バスでの通学中に保護者に見られていたようで、「あの生徒はなんでズボンなんだ」という電話が学校にかかってきたことがあったそうです。

あとは、何ていうのかな……女子校特有なのかはわかりませんが、学校のなかで「あの人が嫌いだ」とか「〇〇先生が嫌だ」といった人の悪口を聞くことが多くて。別に自分が言われているわけではないのですが、すごく気になってしまって、学校に行かなくなってしまいました。

それで、バイトを始めました。校則ではバイトは禁止だったのですが、「高校は行っていないし、家で何もしないよりはいいか」と思って。バイトをやっていると「何かやっている」「社会とつながっている」と感じられたし、大学は高卒認定で行けるし、もう高校はいいかな、というふうに思えてきて、やめました。母親には、「大学に進学しなかったら最終学歴が中卒になってしまう。それではまともに就職できないから、大学には行きます」と説明して、了承してもらいました。

◆中退の理由を言いづらかった

高校に行かなくなり始めたときも、母親には「制服が嫌なんだ」とは言ったのですが、全然ピンと来ていなくて、「一体制服の何が嫌なのか」みたいな反応ではありました。この子は学校に行っていないけれど、具体的に何が嫌なのか、というのは、全然わかっていなかったと思います。「何か悩んでいる」「嫌なことがあるんだろうけど……」という理解だったのかな、と思います。

制服の話は、母親にはあまりできませんでしたね。「制服が嫌」と言っても、それこそ「入学する前からわかっていなかったんじゃないか」と言われそうだし。ごもつともなんですけど、単にわがままで、と思われそうで。先生に聞かれたときも「別にとくに嫌なことは学校内ではないんですけど、なんか行きたくないんです」とぼかした言い方をされていて、先生を困惑させていました。スラックスで登下校したい、と相談したとき、学年主任と担任、生活指導の先生には理由を伝えざるを得なかったのですが、言いづらかったです。

4. 高1で「HOMEY」を立ち上げる

◆「かながわレインボーセンターSHIP」に行く

中3の頃からブログをやっていました。プロフィールに「トランスジェンダー」と載せて、日常のことを書いていたのですが、そのブログを通じて3、4人ぐらい、同い年のFtMと交流があったんです。会ったことはなかったのですが、LINEで何度かやりとりをしていました。

そのうちの1人が横浜に住んでいたのので、「かながわレインボーセンターSHIPに行ってみたいんだよね。この日の交流会に行きたいんだけど」という話をしたら、「行ったことあるよ。じゃあ空けとくね」と言ってくれて、横浜で落ち合って、一緒にSHIPに行きました。高1(2014年)の夏頃だったかな。当時、アイドルが好きで、幕張なんかでやっている握手会に何回か行っていたので、首都圏に行くのは慣れていました。

仙台のSMILEの活動は、代表の方の就職活動が始まって停滞していた時期でした。だったら、自分でSMILEさんのようなことができないかな、と思って、SHIP代表の慎二さんにちょろっと言ったんです。「地元で何かやれたらいいなと思ってるんですよね」って。そうしたら、慎二さん、急に電話をかけ始めて、どこに電話しているんだろうと思ったら、「仙台にコミュニティセンターZELがあるよ」「そこだと無料で貸してくれるから、簡単にできるんじゃない？」と教えてくれました。「自分でもできるかもしれない」「団体をやってみよう」と思うきっかけになりました。

◆2014年11月、初めての交流会

SHIPに行ったのが2014年の夏で、交流会を始めたのは11月でした。同い年のFtMで仙台に住んでいた子がいて、買い出しは一緒に行ってもらいました。ホームページを開設したり、Twitterのアカウントを取得したりするのは、自分でやりました。パソコンは使い慣れていましたね。ホームページを作るときは、Googleで「ホームページ and 作り方」で調

べて、ウェブサイトの情報を参考にしました。

それ以外の準備としては、ZELに電話をして利用を申し込んだぐらいです。「こういう理由で使いたいですけど」と言ったら、「いいですよ」って。本当にこんなにさくさく進んでいいのか、というくらい。あとは日取りを決めて、「この日にやります」という告知をただけです。

「HOMEY」という団体名を考えたのは、自分です。SMILEのイメージがあって、なんとなく英語かな、というのがあって。調べていていいな、と思ったのが「HOMEY」だったので、ずっとこの名前で行っています。

◆中高生をターゲットに

自分がイベントや団体を探しているときに気にしていたことは、同世代がいるか、という点でした。だから、中高生をターゲットにしよう、というのは意識していました。でも、完全に中高生向けにして、果たして人が来るのか、という問題もありました。SMILEも大学生はいても、高校生はいなかったです。だから、参加できるのは「10代、20代」とぼかしつつ、「東北のLGBTQ中高生」という言葉を前面に出しています。性別やセクシュアリティの制限もかけていません。理解者の参加もオーケーにしています。

SMILEに参加する前、何回か、勉強会的な集まりに行ったことはあったんです。でも、大人がたくさんいるイベントだと、何かを学びに行くような講演会のイメージがあって、自分がやりたいこととは違うな、と思っていました。

あとは、お酒の場ではなく、友達づくりの場をやりたと思っていました。セクシュアリティで絞ることをあまりしなくなかったのは、出会いの場を作りたいわけではなかったから。出会いの場だったらアプリもあるし、レズビアンの方だったら「♀×♀お茶っこ飲み会・仙台」、ゲイの方だったらZELにきっと集まっているんだろうし。「友達を増やそう」「楽しく過ごそう」というスタンスで参加してほしい、と考えていました。

◆少しずつ中高生が来てくれるようになった

1回目は、「本当に中高生向けか」というぐらい、大人しか来ませんでした。SMILEで知り合った方とか、ESTOの真木さん（本冊子にインタビュー掲載）とかが心配して来てくれて。10人ぐらい大人の方が集まって、記念撮影をしたのがいい思い出です。

そのあと10回目ぐらいまでは、参加者は1人か2人で、あまり人が来なかったです。「今回、自分と2人なんですけどいいですか」って、「面談じゃないか」という感じで続けていましたが、だんだん高校生や中学生も来てくれるようになりました。人が少ないときでも、「1人来てくれるだけでもいいかな」と思っていました。ゼロではないから、そこは深く考えないようにしました。会費は1回200円。お茶菓子代です。

◆同年代にアクセスするための工夫

「中高生向け」と明記することは大事な、と思っています。実際は20代も参加できますが、「ターゲット絞ってますよ」ということをアピールするために、Twitterで広報を始め

たときも「中高生向けです」とバンと書いて、そこを押していきました。

SMILE も「中高生向け」とは明記されてなくて、ブログから「何となく若そうな人たちが集まっているのかな」という雰囲気を自分で判断しました。でも、そこは、ブログを読まなくても、若い人が行っていい場所なんだとわかるようにしたい、と思っていました。

交流会の場所は、ブログで開示していますが、事前申し込みをお願いしています。でも、当日、急に来てもオーケーです。「中高生向け」と書くことで変な人が来てしまう、ということは、幸い今までなかったですね。ZEL を最初に借りたとき、太田さん（本冊子にインタビュー掲載）が「もし不審者が入ってきたりとか、何かトラブルが起きたら、ここに電話してください」と番号を教えてくれて、本当にまずいことになったら、大人に連絡できることになっていました。

参加者は、宮城県内の人が多いです。でも「よりみち」（本冊子にインタビュー掲載）ができる前は、「福島から来ました」とか、「山形です」という人もいました。地元だと「どこに行っても知り合いがいるかも、と行って行きづらい」という人もいますね。実際に、参加者の1人で、交流会に参加したら友達のお姉さんがいた、ということがあって。「言いふらすようなことは、きつとしないだろうな」とは思ったんですけど、でも「身内がいるのはちょっと気まずいかな」と思いました。

交流会のグランドルールは、相手のセクシュアリティや考え方を否定しない、ということ。あとは、写真と SNS に関するルールですね。写真を撮るのはいいけれど SNS に載せるときはちゃんと許可を取ってね、「今日は誰々が来ていた」と書くときも許可を取ってね、というルールはあります。アウトティングを心配して設けたルールですが、幸い今までアウトティングはないです。

◆交流会は月1回

始めたときから、頻繁にできたらいいなと思っていたので、それこそ最近までずっと、月1回の頻度でやっていました。最近は、大学が忙しかったり、就活があったりで、なかなか月1ではできないんですけど。

場所はずっと ZEL です。たまに、外で遊ぶこともありますし、「よりみち」とのコラボ企画のときは場所が変わりましたが、ZEL は無料で複雑な手続きがいらないので、助かっています。HOMEY を始める前、市民センターとか行政が運営しているところにしようかなと思っていろいろ調べていたのですが、まず登録者カードを作らなければいけない。未成年だと親の同意が必要だし、半年前から予約しないと使えない。「これじゃあちょっとできないな」と思いました。

交流会の内容は、集まってゲームをしたり、話したりすることがメインではあるんですけど、ときどき「読書会」と称して好きな本を持ち寄って紹介したり、クリスマスやハロウィンのイベント系でプレゼント交換をしたり、お花見に行ったりすることもあります。

◆親との衝突

最近、T くんという子が HOMEY の手伝いをしてくれているのですが、T くんは「今朝、

親と衝突して出て来たんですよ」みたいな話をしたりしますね。あとは、年下の子ですが、家に帰りたくなくて、友達のところを転々としていた、今は地元をいたくなくて、東京で夜の仕事をしながら友達の家に住んでいる、という子もいます。SMILE で出会った友達も、親が「なんでそんな服を着るんだ」とか「どうして髪をそんなに刈り上げたりするんだ」とすごく干渉してきて、「しょうがないから家を出て東京で一人暮らしをする」と突然、東京に行ってしまいました。

自分も中学のとき、最初に SMILE に行ったときこそ母親に正直に言いましたが、2 回目以降は全然言っていなかったです。高校のときの友達の名前を適当に出して「ちょっと〇〇ちゃんと遊んでくるから」と言っていたので、他の人もそんな感じなのかな、と想像しています。

5. 大学生活

◆進学

大学は行こうと思ってベネッセの通信教材で勉強はしていたんですけど、ずっとバイトを続けていたし、受験勉強というものには全然身が入らなくて、勉強せずにセンター試験を受けました。結果は散々で、「大学どうしよう」と思ったとき、まだ申し込めるところに申し込んだら、受かりました。

オープンキャンパスにも行ってないし、どういうところなのかも、全くリサーチしないまま入学しました。専攻は建築です。入るのが簡単そうだったからそこにした、という感じでしたが、入ってみたら楽しいです。ものづくり的なことは好きなので、結果オーライかなと。

◆泊りがけの入学オリエンテーション

入学前の段階で、保健室からの健康診断のお知らせと、修学上で何か困ることがあったら申告してください、というアンケートが入っていました。そこで、自分の性自認のことを書いて送ったら、相談室から呼び出しがあったので、入学前に自分の扱いやトイレのことを相談しました。そこで入学オリエンテーションの話もして、秋保のホテルで泊りがけだったのですが、「1 人部屋を用意してもらえるか」と聞いたら、「それは難しい」と言われました。学部の女子は数人しかなくて、9 割以上が男子。他学部の女子と一緒に大部屋に入れられる、という話で、それは厳しいな、と。「オリエンテーションは強制ではない。休むこともできる」ということだったので、「では見送ります」と言って、オリエンテーションに参加しなかったんです。

でも、そのオリエンテーションでみんな友達をつくるし、サークルの説明もされるんです。翌週、大学に行ったら、すでに何となくグループはできていて、話しかけるのも難しく、そのまま来てしまっています。大学のサークルも、いまだにどんなものがあるのか、まったく知らないです。

だから、大学には友達がいらないのですが、勉強をしに行くところだ、と割り切ったら、そ

れほどしんどくないです。友達は HOMEY つながり大学の外にいるし、高校みたいにクラスがあるわけではないから、四六時中、一緒というわけでもない。せいぜい講義のときに「グループになってください」と言われて、少し困るぐらいです。ありがたいことに単位はスムーズに取れていて、優秀な学生として見てもらえているようです。

◆治療

高校の2年か3年の頃から、性同一性障害を専門で診ている病院に通っています。スクールカウンセラーの先生に相談したら、その先生が知っている精神科を紹介してくれて、その精神科の先生に札幌の病院を紹介されました。診断書が出て、今、体の治療をする段階にきています。

就職までに胸オペぐらいは済ませたいのですが、先生から「20歳は超えているけど、お母さんには一応、説明したほうがいいですよね」と言われました。それで、去年の大晦日にパワポを作って説明したんですよ。母親は「理解」というところには至っていない様子でしたが、「あなたがそうすることで楽に生きられるなら、それでもいいよ」と、治療すること自体は了承してくれました。

それ以前は、LGBTに関する話題を自分から出しづらかったのですが、大晦日には「実は大学をさぼって講演活動に行っていました」といった話も、少しすることができたんですね。そうしたら「こそこそするぐらいだったら、言ってくれたほうがいい」と言われました。それで「せんだいレインボーDay」（2019年7月13-14日）のときも、「こういうイベントで東ちづるさんとしゃべるんだよ」と伝えました。母親も、まるっきり拒否、という感じではなくなって、LGBTの話題も受け止められるようになってきているのかな、と思います。

6. 活動の広がり

◆講演活動

小浜さん（本冊子にインタビュー掲載）が声をかけてくださって、何回か講演に参加させてもらっています。主に行政が対象です。仙台市、名取市、宮城県教育委員会の職員向けの講演や、助産学校もありました。

講演を始めてみて思ったことなのですが、「話すの、けっこう好きだな」って。自分の中学時代、高校時代の不登校の話を中心にしているのですが、話を聞いてもらうのは気分がいいな、と思って、楽しくやれています。

◆メディアに出る

テレビとか新聞とか、記録として残るのはどうしようかな、と最初は思いました。でも、顔を出した新聞記事が初めて出たとき、親も、近所の人も、小中学校の地元の友達も、何の反応もなかったのが、「これ、みんな見てねえな」と思って（笑）。『毎日こども新聞』だったんですけど。

その後に、NHKの取材も受けて、それも顔を出した映像が全国区で流れたんですけど、

「見たよ」と誰にも言われなかった。親戚の人からも、何の反応もない。「意外とNHKもみんな見ないじゃん」と思いました。新聞とNHKで顔を出しても、生活に何の影響もなかったんですね。逆に言えば、「みんな全然興味をもっていないんだな」と悲しくなるくらい反応がなかった。だから、顔出しで生活に影響する、ということが実感としてあまりありません。それで、ずっと顔出しで活動しています。

名前は、さすがに「あゆみ」だけにしています。名字が日本に一世帯しかないくらいレアで、出したら一発で特定されちゃうので。

でも、「新聞見ました」と言って、交流会に来てくれた当事者はいました。それから、助産学校で講演をしたときは、「朝日新聞の記事、見ました」と連絡してくれた人がいました。記事にはメールアドレスを掲載してもらっているので、記事を読んだ人から講演の依頼が来たこともあります。

7. 地域性

◆プライバシー

とくに地域性を意識して活動していないのですが、「友達のお姉ちゃんが来ていた」というのは、ちょっと怖いな、と思います。あとは、交流会が終わったあと、みんなで何となくまとまって仙台駅まで歩くときに、「MtFの人が近くにいて一緒に歩いていると、変な目で見られそうだから怖い」といったことを参加者に言われたこともあって。駅前で「わっ、友達だ!」ということもあったりします。知り合いと出会わないように、とか、できるだけプライバシーが守られるように、ということは、気にはしていますが難しいです。

◆首都圏への流出

高校まで仙台だったけれど、その後になくなってしまいう人は、けっこう多いです。SMILEの頃からの友達も東京で一人暮らしを始めているし、進学がいちばん大きいですかね。HOMEYの第1回の際に手伝ってくれた子も、進学で首都圏に行って、もう働き始めていて、しかも全国を転々とする仕事なので、ずっと会ってないです。

自分も一人暮らしをしたいな、というのはあったんです。母親が年で。今年で64歳になります。離婚した父親は、直接家に来ることはないんですけど、たまに非通知で脅しのようなの電話がかかってくる。それで、母親を1人にしておくのが怖いんです。家で1人にしておいて話し相手がいなかった呆けちゃいそうだし、65歳で退職したら収入もないし、これから自分の就職を控えています。一緒に暮らすかな」「仙台も好きだしそれでいいかな」というふうに思っています。

東京は、ちょっと暮らしてみたいな、というミーハー的な気持ちはありますが、新幹線でいつでもいけるし、特にこだわっていません。

◆震災

震災の経験と団体を立ち上げたことには、とくに関係はないです。家も大丈夫でしたし、

オール電化で、震災後 3 日ぐらいで電気が通って、普通に生活できてしまった感じだったので。

8. これまでの活動をふりかえって

◆成果

最初は、それこそ 1 人、2 人ぐらいしか参加者がいなくて。それでも、自分の友達づくりという面もあったので、「自分の友達ができただけから、いいかな」と満足していたんです。でも最近は、講演活動やメディアで自分の活動を聞いてくれる人がいたり、参加者の人数も増えてきて、10 人以上来てくれることもある。何回も来てくれる常連さんもけっこういて、これは成果かな、と思っています。それに、今年で HOMEY は 5 年目になるのですが、長く続けてきたことによって、「せんだいレインボーDay」のような場で他の団体さんとなつながらできるようになっているのは、すごい成果だと思います。

◆活動の意義

自分の友達づくりから始めた活動ですが、そこは今でも変わっていません。何よりも自分のために活動を続けよう、と思っています。常連さんがいたり、メディアで取り上げられたりするのはもちろん嬉しいし、誰かのためにやっている面もなくはないですが、「誰かのために」というふうにはやっていたら、いつか自分がやりたくなくなってしまうときが来るんじゃないかな、と思っています。

5 年間続けてきて、これから就活でどうなるかはわからないけど、自分がやりたいこと、SMILE みたいな活動がしたいな、と思って始めた気持ちを大事にしたいです。何より「自分が楽しめるから続けていきたい」と思えるような形で続けたいし、それが HOMEY をやっている意味かな、と思っています。講演も、自分が楽しめているからやれている、というのが大きいです。

◆課題

最近、自分より年下の子たちが来てくれることが多くなってきたのですが、ずっと「さん」付けで呼んでいると、距離があるように感じてしまうので「〇〇ちゃん」「〇〇くん」と呼ぶようにしています。それで、女の子の格好だったから性自認も女性だろうと思って、ずっと「〇〇ちゃん」と呼んでいた子がいたのですが、3 人でご飯を食べに行ったとき、「実は自分 FtM なんですよね」という話をされて、「そっか、ごめんね。ずっと“ちゃん”で呼んでたよね」と肝を冷やしたことがありました。自己紹介の段階で、性別やセクシュアリティは言っても言わなくてもいいことにしているので、完全にはわからないのですが、自分の思い込みが拭い去れていないな、敬称は気をつけないと駄目だな、と思いました。

ゲイの男の子の参加は少ないです。そこは、どうしてだろう、と思っているところではあります。交流会への参加は、セクシュアリティやジェンダーで限定していないので、来られるんですけど、ゲイの方って、今まで 3 人ぐらいしか来たことがないかもしれない。一時

期、スタッフでホームページを担当してくれたゲイの子がいて、進学で他県に行ってしまいましたけど、その子を合わせても3人ぐらいしかいないかもしれない。

なぜでしょうね。やっぱりアプリで比較的、簡単に当事者と会えちゃうのか、ゲイはゲイでコミュニティがあるのか……。わざわざHOMEYのような、どんなジェンダー、セクシュアリティの人でも来られるよ、というところに来なくても満足できるところがあるのかな、と勝手に思っています。

◆今後

中高生向けの場所は、必要だと思います。本当は、自分も大学生になってしまったし、中高生向けの居場所と称して大学生がいるのはどうなんだろう、と思いつつやっています。でも、大人が干渉しない場所は、個人的にはすごく楽しい場所だった。そういうことをやりたいと思う人がいたら、引き継ぐので、続けてほしい。さっき名前を出したTくんは、すごくアクティブで行動力のある子なので、引き継げないかな、と思っているのですが、進学や就職で「首都圏に行くことも考えている」と言っていたので、ちょっと厳しいかな。

仮に自分が就職で活動が続けるのが難しくなったとしても、HOMEYという名前だけでなく形だけは残していきたいです。Twitterアカウントもフォロワー数が500人ぐらいいるし、これから若者向けの居場所づくりをしたい人がいたら、HOMEYという名前だけでなくも全然いいから、そのアカウントを広報に使ってもらいたい。そういうふうに引き継げたらと思っています。